

興国寺城 静岡県沼津市根古屋城 359

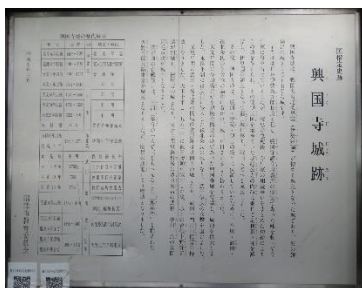
北条早雲は初め伊勢新九郎盛時と称し室町幕府將軍の申次衆を務めたが、駿河の守護今川氏とは姉北川殿が今川義忠の正室というつながりがあった。文明8年(1476年)義忠が急死すると、その後の家督争いで甥の今川氏親を助けた功により長享2年(1488年)頃、富士郡下方12郷を与えられ初代の興国寺城主となったとされる。興国寺城は戦国大名による領地争い境界の城として争いの渦中におかれ、今川氏、北条氏、武田氏、豊臣氏、徳川氏の勢力下となり慶長6年(1601年)徳川家康の家臣天野三郎兵衛康景が1万石の城主となる。しかし康景は家臣をかばい自ら逐電してしまったため慶長12年(1607年)興国寺城は廃城となった。興国寺城の見どころは大土塁(防御用の土の壁)と天守台背後に造られた幅20メートル以上もある大空堀である。(説明版、旅コト資料)



天守の概容



北条早雲の碑



説明版



現存の石垣



濠



当城の特徴である高低差がある空堀